

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670101161
法人名	医療法人 東北医療福祉会
事業所名	フラワー小姓町
訪問調査日	平成 20 年 10 月 15 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	670101161		
法人名	医療法人 東北医療福祉会		
事業所名	フラワー小姓町		
所在地 (電話番号)	山形県山形市小姓町7番15号 (電話) 023-625-7210		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年10月15日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 7月 22日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 21人, 非常勤	人, 常勤換算 21人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/>
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4階建ての	2階 ~ 4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,400 円	その他の経費(月額)	電気・水道料 15,000 円 他
敷金	有() 円	無 <input checked="" type="radio"/>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(60,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	10 名	要介護2	7 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	71 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	篠田総合病院 山形厚生病院 三浦歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは中心市街地に位置し、昔ながらの商店や大きな商業施設に気軽に出かけたり、近くの小学校や地域ボランティアとの交流が盛んに行われており、また、町内会にも入り、地域の一員として様々な行事に参加して地域交流を深めています。
また、「人間としての尊厳を守り、地域の中で最後までその人らしい在り方を目指します。」という理念を掲げ、各委員会活動を活発に行いながら、理念を実践していく取り組みを進めています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>災害対策については、年に2回、消防署員とともに災害時の避難訓練等を行っており、夜間の災害発生を想定した通報訓練や召集訓練も実施されている。また、町内会総会では災害発生時の協力依頼が地域住民に対しても行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を行う前に管理者から職員に評価の説明がなされており、ユニット会議で話し合われた内容をユニット長がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には町内会長や家族会会長、民生委員等も参加しており、ホームの状況報告を行ったり、助言や意見をもらいながら、具体的なサービス改善に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>サービス利用開始時に、重要事項説明書を用いて苦情相談窓口を家族等に説明したり、ユニット入口にも相談窓口を明記して掲示する取り組みが行われている。また、年に1回、家族会の総会でも意見を出してもらうようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入り、町内の一員としてお祭りや資源回収、小学校行事に参加している。また、ホームで開催される納涼会には地域の方も招待し、お互いに交流ができるようにしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全体で地域密着型サービスとしての理念を作りあげ、ホーム内の目に付くところに掲示し、日ごろから実践できるよう取り組んでいる。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム独自の理念が掲示されており、また、週初めには唱和して実践できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、町内の一員としてお祭りや資源回収、小学校行事に参加している。また、ホームで開催される納涼会には地域の方も招待し、お互いに交流ができるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を行う前に管理者から職員に評価の説明がなされており、ユニット会議で話し合われた内容をユニット長がまとめている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には町内会長や家族会会長、民生委員等も参加しており、ホームの状況報告を行ったり、助言や意見をもらいながら、具体的なサービス改善に取り組んでいる。		

山形県 フラワー小姓町

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	新規事業や困難事例の相談、各行事への案内等は市役所にも行われており、ともに連携しながらサービスの向上を目指している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態等を書いたお便りや金銭出納状況報告が毎月1回家族に送付されている。また、受診した際の結果報告については、その都度に電話で報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス利用開始時に、重要事項説明書を用いて苦情相談窓口を家族等に説明したり、ユニット入口にも相談窓口を明記して掲示する取り組みが行われている。また、年に1回、家族会の総会でも意見を出してもらうようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者ごとに複数の担当職員が決められており、馴染みの関係を作りながら、異動による職員の交代があっても、できるだけ利用者にはダメージを与えないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体で研修計画を立て、職員の経験年数も考慮しながら法人内・外の研修を受講できている。また、採用時研修の計画的な実施、研修内容の報告会や閲覧についても行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内、市内のグループホーム連絡会に参加しており、管理者の情報交換や研修会が行われている。また、他ホームとの相互評価研修を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活場面で好みのものや趣味等を把握しており、調理、花、野菜など、利用者が関心のあることについて、一緒に行くようにしている。また、職員がわからないことを入居者から教えてもらえる関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症高齢者のケアの視点から課題分析を行っており、入居者一人ひとりの意向が把握されている。また、毎月開催されるユニット会議でも、本人の意向や希望についての話し合いが行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は、本人や家族等の意向を踏まえ、職員とともに意見を出し合いながら行っている。また、日々の生活の中で明らかになった課題についても検討され、介護計画に盛り込まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画は見直されており、現状に沿った計画が作成されている。また、状態に変化があった時点で、家族や主治医と話し合いをもち、現状に合わせた介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用開始時に希望する医療機関を家族等に確かめる ようにしており、従来のかかりつけ医や協力医療機関に それぞれ受診することができている。また、受診の際に は記録を持参して、より適切に診療が受けられるよう配 慮されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合の対応等について、利用開始時に利 用者や家族等の意向が確認されており、その結果は職 員全員に回覧して情報を共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	言葉かけや対応についての職員会議やユニット会議で の話し合い、広報誌等に写真が掲載される場合の承諾 書の取り交わし、個人記録等の保管場所の指定など、 プライバシーが守られるように取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者それぞれの希 望に合わせて過ごすことができ、利用者それぞれの残 存能力を維持させながら、散歩や買物等を通して、そ の人らしい暮らしが支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりがそれぞれの力を発揮できるよう配慮しながら、調理や味付け、配膳、後片付け等を職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に希望する入浴時間を確かめながら、一人ひとりの希望に沿った入浴ができるように支援している。また、同性介助を行うなど、利用者の立場に立ちながら入浴が楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできること、好みのものを考慮して、ちぎり絵や草花の手入れ、季節の飾りつけ等を行っている。また、日中の散歩や買物など、楽しみごとや気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの身体状況等に合わせ、散歩や買物に日常的に出かけている。また、家族会とも協力して行事を開催したり、運営法人から借りたバスを利用して外出することも行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	玄関にセンサーを設置し、鍵をかけずに対応できおり、不穏な状態が見られた場合には、職員も利用者と一緒に外に出かけるようにしている。また、職場内研修では身体拘束とその弊害についての話し合いも行われ、職員間の共通認識・共通理解が得られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署員とともに災害時の避難訓練等を行っており、夜間の災害発生を想定した通報訓練や召集訓練も実施されている。また、町内会総会では災害発生時の協力依頼が地域住民に対しても行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に合わせた形態での食事提供、チェック表を利用した摂取状況の記録がなされている。また、献立の内容や栄養バランスについては、運営法人の栄養士による確認がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には季節の飾り付け、外出や行事の写真などが飾られており、季節を感じたり、楽しかった行事を思い出しながら過ごすことができている。また、エアコンによる室温調節やカーテンでの採光調節も行われており、利用者が居心地よく過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを身の回りに置くことによって、安心して過ごすことができる居室となるように、家族とも相談しながら、本人が前から使っていた家具や椅子、鏡台を持ち込んだり、家族の写真を飾りつけたりしている。		